

学生成長記録システム

学修ポートフォリオと融合した新しい学生支援ツール
目標実現への主体的な取り組みを促し
効果のある指導をサポート

学生指導に必要な情報をワンストップで管理
指導担当の教職員間で学生に関する情報を共有。
タイムリーなアドバイスで学生の成長をしっかりフォロー。



目標(Goal)を考えさせ、明確にすることで学生の行動は変わります。

- 1 目標に対する取り組みをPDCAサイクルで管理
- 2 取り組み状況の「見える化」で適時のアドバイス
- 3 相談面談は3つの種別に分けて保管・共有
- 4 ポートフォリオ機能はグループ学習に対応



◆ 学生指導の流れ

目標への取り組み状況や指導に必要な情報確認、アドバイスを通じての学生と指導担当者間のコミュニケーションが行えるので、指導業務の負荷が軽減されます。

学期単位で目標への取り組みを管理します

	学期始め	学期中	学期末
学生	当学期に取り組む目標を設定する。 活動の計画(P)を立てる。	目標達成へ向けた活動を実行(D)する。学期中に終了する目標は、評価(C)、改善(A)を行い、次サイクルの目標設定を行う。	学期中の活動について評価(C)を行い、次学期に向けての改善(A)を検討する。
教職員	学生が登録した目標および計画(P)に対し、学生情報を参照しながらアドバイスを行う。	随時更新される学生の取り組みの状況確認し、必要に応じてアドバイスを行う。	学生の自己評価を受けて、学生情報を参照して次学期の取り組みに向けての指導を行う。

在学期間を通して、各時期に応じた学生指導をサポート

入学時	在学中	就活時	卒業
ガイダンスなどの場で在学4年間を通して「なりたい自分」を設定し、目標への取り組みの目的意識を明確にする。	「なりたい自分」の実現へ向けて具体的な目標を立て、PDCAを回して行動する。成果物はポートフォリオに蓄積する。	目標達成への行動を続けながら、今までの自分の取り組みを振り返り、就職活動の自己アピールの材料やエビデンスとして利用する。	目標への取り組み、成長の証を改めて確認し、社会人として活躍する糧とする。
目標を考えさせ明確にさせることで、主体的な取り組みを行う基礎を築くよう指導する。	目標への取り組み状況やポートフォリオを確認し、相談面談情報・セルフチェック情報を参考にし、アドバイスを行う。	これまでの取り組みの中から学生の強みを引き出し、自信を持って就職活動ができるように指導を行う。	

◆活用例 ー学生編ー

学生 卒業までの目標を設定

入学時に、なりたい自分を考えさせます。「卒業までの目標」を明確にし、主体的な取り組みを促します。目標PDCA画面の上部に常に表示することで、常に目標達成のモチベーションを高く保たせます。「卒業までの目標」の履歴も残るので、目標の推移を確認できます。

学生 目標の設定と取り組み

目標への取り組みは計画(P) 実行(D) 評価(C) 改善(A)ごとに記入させ、PDCAサイクルを意識しての自律した行動を促します。各項目において、アドバイザーからのアドバイスが記入できます。評価(C) では、達成度を 達成、未達成 またはパーセンテージ（20%刻み）での自己評価を登録します。

学生 長期間で取り組む課題

学期を跨ぐ長期間で取り組む課題は、目標のテーマを共通にすることで、継続した取り組みとして管理します。

学生 振り返り

今まで取り組んできた課題の内容は、いつでも振り返りができます。自分が取り組んできた歩みや教員からのアドバイスを振り返り、就職活動での自己アピールを整理できます。

◆その他の機能

1. 目標PDCA、相談面談情報の他にも 学籍基本情報、入試情報、成績・履修情報などを参照しながら指導を行えます。
2. 学期ごとに行うセルフチェックで、強み弱みや成長の度合いを把握できます。（デフォルトは社会人基礎力）
3. 様々な情報をグラフ化（可視化）したチャート画面で、学生の状況を直感的に把握できます。
4. ポートフォリオ機能では、各授業回に即した成果物、課外活動で作成した成果物の蓄積が行えます。

◆導入のメリット

1. 情報管理の負担軽減

手厚い指導を行うと増えてくる指導情報をシステムで管理することにより、業務負担を軽減できます。

2. 「目標への取り組みやアドバイス」「相談面談情報」の蓄積

システムに蓄積された情報・データを分析することにより、FD・SD活動や学生支援改善の取り組みに利用できます。

◆学生成長記録システム 全体イメージ図

